

レントセルチブは本当に「若返り薬」なのか？ — 最新の臨床データと科学的検証

特発性肺線維症（IPF）治療薬「レントセルチブ」の第2a相試験において、複数のプロテオミクス老化クロックが「若返り」を示唆する変化を検出しました。しかし、これは疾患の改善に伴う血液パターンの変化である可能性もあり、現時点では「老化そのものの逆転」と断定するには証拠が限定的です。

臨床試験で確認された「若返り」のシグナル

複数の老化クロックで「若い方向」への変化を検出

6種類の老化予測モデルを用いた解析で、54比較中21比較で有意な若返りシグナルが確認されました。



4週間で最大約3.5歳の生物学的年齢低下を記録

60mg投与群では、4つの暦年齢型クロックすべてで約2.71～3.46年の若返りが示されました。



科学的な慎重さと今後の課題



「疾患の改善」と「老化の逆転」の分離が未完了

肺機能（FVC）の改善により血液の状態が健康者に近づいた可能性を、現データでは排除できません。



肝機能異常や副作用への注視が必要

実薬群で治療関連有害事象が63.0%と高く、特に肝障害や下痢、低カリウム血症が報告されています。



AIによる標的探索と化合物設計の成果
生成AIを用いて約18カ月で前臨床候補を選定し、臨床試験での概念実証（PoC）に到達しました。

主要な投与群における肺機能改善と老化クロックの変化の比較

60 mg QD群

肺機能（FVC）変化量：
+98.4 mL

老化クロック変化量（4週）：
約-2.71～-3.46年



治療関連有害事象（SAE）：
9.3%（実薬全体）

プラセボ群

肺機能（FVC）変化量：
-20.3 mL

老化クロック変化量（4週）：
有意な変化なし

治療関連有害事象（SAE）：
0%

企業発表

論文の結論

企業発表と論文の結論には「温度差」が存在
企業は「老化逆転」を強調しますが、査読済み論文では「探索的な仮説生成」の段階と位置づけています。